

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2014	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
6				
7	スピリチュアル・ワールド 5月13日(火)~7月13日(日)	佐藤時啓 光-呼吸 そこにいる、そこにはいない 5月13日(火)~7月13日(日)	世界報道写真展2014 6月7日(土)~8月3日(日)	『華 いのち 中川幸夫』 6月7日(土)~
8			ヤング・ポートフォリオ 『原点を、永遠に。』 8月9日(土)~8月24日(日)	『クラシック音楽映画名作選』 6月28日(土)~7月18日(金)
9	岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて 7月19日(土)~9月23日(火・祝)	フィオナ・タン まなざしの詩学 7月19日(土)~9月23日(火・祝)	写真新世紀 東京展 2014 8月30日(土)~9月21日(日)	『フィオナ・タンドキュメンタリー 作品上映』 7月19日(土)~9月23日(火・祝)

2014年9月24日(水)~2016年8月末(予定)は休館となります(詳細は本誌P12またはホームページにてご確認ください)。

※本誌に掲載のスケジュール・展覧会タイトル・関連イベント等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

**ご利用案内** ●休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日) ●開館時間:10:00~18:00(木・金は20:00まで)  
※7月17日~9月19日の木・金は21:00まで開館 ※入館は閉館の30分前まで

**割引チケットの販売** 3展示をすべて鑑賞できる「セット券」、2展示を選べる「チョイス券」を販売しております。  
詳しくはチケット売り場でおたずねください。

## 1F ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」 「CAFÉ BIS (カフェ・ビス)」

◎ナディッフ バイテン  
【営業時間】10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)  
7月17日~9月19日の木・金は21:00まで  
【お問い合わせ】Tel.03-3280-3279

◎CAFÉ BIS  
【営業時間】11:00-18:00(ラストオーダー17:30)  
木・金は20:00(ラストオーダー19:30)  
【お問い合わせ】Tel.03-6721-7474



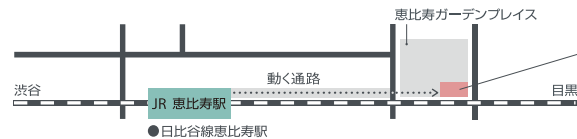
グレープフルーツ、ライム、  
レモン。爽やかな柑橘ソー  
ダで夏気分。※期間数量  
限定メニューです。  
ソーダ グレープフルーツ・  
ライム 460円(税込)



ニュース別冊「ニアイズ」が単行本化。  
登場人物のぶくぶくシールも作りました。  
ニアイズ(単行本) 594円(税込)  
ぶくぶくシール 1,080円(税込)



簡単に作れて写真の原理もわか  
る紙製の組立ピンホールカメラで  
す。(フィルム別売)  
ピンホールカメラ 864円(税込)



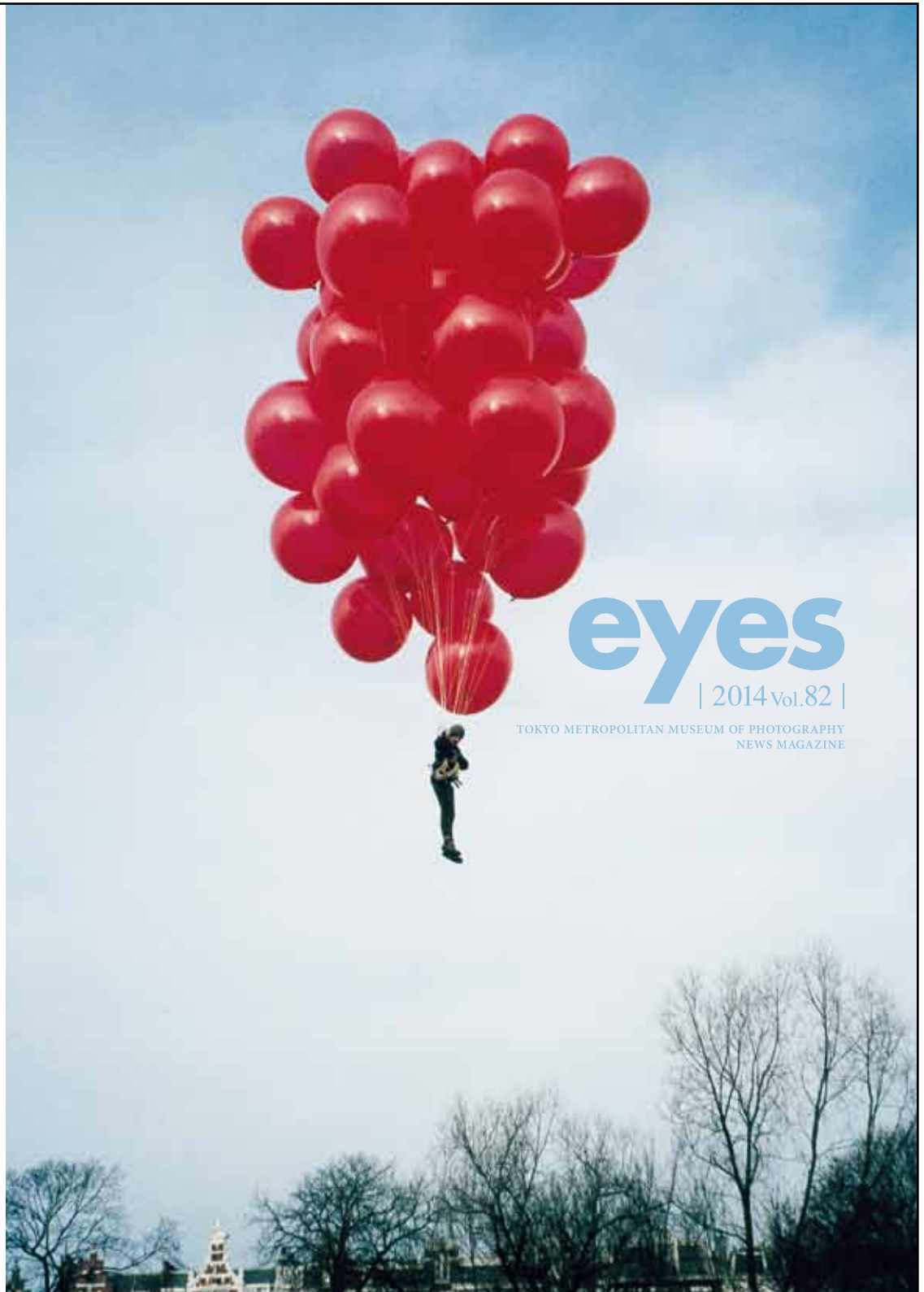
### 東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099  
<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ14」82号 ●発行日:2014年6月6日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係  
●印刷・製本:TB印刷株式会社 ●発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2014 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes  
| 2014 Vol.82 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY  
NEWS MAGAZINE



左)《リフト》2000年より、制作ステル (参考図版) / 右)《リフト》フィルム&ビデオ・インスタレーション 2000年 東京都写真美術館蔵

TOPICS

## フィオナ・タン まなざしの詩学 Fiona Tan Terminology

フィオナ・タン Fiona Tan

1966年ブカンバル(インドネシア、スマトラ島)生まれ、現在はアムステルダム(オランダ)を拠点に活動。中国系インドネシア人の父とオーストラリア人の母をもち、オーストラリアで育つ。1988年よりアムステルダムに移住し、リートフェルトアカデミー、ライクシアカデミーで学ぶ。横浜トリエンナーレ(2001)、第8回イスタンブール・ビエンナーレ(2003)、ドクメンタ11(2007)、オランダ館の代表をつとめたヴェネチア・ビエンナーレ(2009)など多くの国際展に参加。東京都写真美術館においては、「第2回恵比寿映像祭 歌をさがして」(2010)で展示・上映部門に出品している。



©Marieke Wijntjes

フィオナ・タンの静謐で美しい映像作品の数々は、見る人の感覚や記憶、身体に多くを語りかけてくる。本展は、新旧の代表作を通じてフィオナ・タンが示してきた映像をめぐる美と知の体系に迫る本格的な個展であり、その創作活動に通底する美学や哲学を解き明かす絶好の機会。中国系インドネシア人の父とオーストラリア人の母のもと、インドネシアに生まれ、オーストラリアに育ち、ヨーロッパで学び、現在はオランダを拠点に世界中で制作・発表をしているフィオナに、当館の岡村恵子学芸員がお話をうかがった。

岡村)フィオナさんはどんな風に作品制作を進めるのでしょうか。

フィオナ)基本的には私の中にイメージ、アイデア、読書で得た知識や関心を持っていることが入った大きな引出しがあって、そこから作品が始まります。突然、思考の断片や物事の結びつきに気づくのです。最初は小さな種として始まり、それを植えて育つを見守ります。長年作品を作っているうちに、自分の制作プロセスは必ずしも直線的ではなく、もっと有機的で、らせんや曲がりくねった道のような感じがします。旅であれ、水であれ、肖像であれ、レンズを通して作られるイメージについて考えることであれ、また写真をどのように解釈し、どんな意味を持たせるかについてであれ、同じテーマが作品の中で何度も反復されています。何かのテーマに再び出会う過程は、前とは違う旅だと思っていますし、それに対するアプローチも毎回異なります。

岡村)出品作品では、新旧の異なる映像メディアが用いられていますね。メディアの選択や、技術についてのお考えをお聞かせください。

フィオナ)写真のプリントや映像の上映を目にすると、私はいつも「どんな風に感じるだろうか?」と自分に問いかけます。メディアに対して、身体的

なアプローチをとっていると言えるかもしれません。私はセルロイドフィルムがまだあった時代に育ったので、フィルムが作り出す色や感覚はとても好きです。しかし、それは懐古的な意味ではありません。私の子ども達は、その違いなど気につけないということも充分理解できます。技術はとても重要ですが、だからこそ鑑賞者の目に入らない方が作品にとって望ましいと思います。

一方で、様々な技術的問題に直面することは、制作のペースを遅くします。これは多くの人が抱える困難ですが、私にとっては、それだけ作品のことを長く考え様々な角度から吟味することを可能にしてくれます。撮影、編集、展示という様々な段階でいろいろなことを試し実験します。特に編集はとても大事です。時間だけでなく、空間も彫刻していくような感覚になります。

最近では、どのカメラで撮影するかを決めるのに長いテスト期間を設けます。今回日本で初出品する《インヴェントリー》(2012年)では、その過程自体を作品にし、何で撮るかをあえて一つに決めないことにしました。そして、スーパー8、35ミリフィルム、ビデオなど異なる6つのメディアで同じ光景を撮影し6面の映像インスタレーションとして仕上げました。どのメディアが一番優れているかわかるのではないかと考えていましたが、その過程でどれもそれぞれに良い映像が撮れるということを知りました。それぞれの美しさと欠点を持っているのです。この作品を発表してから、たとえ安いカメラで撮影してもいい映像が撮れると考えるように

なりました。とはいえ見る人はメディアの違いを識別しないかもしれません。この作品が扱っているのは技術的なことだけではないので、それでもいいのです。

岡村)映像インスタレーションは、ドラマやドキュメンタリーと違って抽象的です。楽しみ方の手掛かりは何でしょう?

フィオナ)どんな映像もなんらかの形で「翻訳」を行っていると言えるでしょう。むしろ「接近」という言葉の方が適切かもしれません。どんなメディアも現実を描くことは出来ません。何故ならメディアは、私達人間が入力することのできる「現実」の再現に「接近」するためのツールではないからです。私達の脳や視覚を司る神経が、幅広いイメージからなんらかの意味を見出す機能を持っているということは興味深いことです。例えば、赤ちゃんや幼児は



上下)《インヴェントリー》HD&ビデオ・インスタレーション 2012年



《ディスオリエント》HDビデオ・インスタレーション 2009年



とても抽象度が高いイメージを理解することができます。彼らの脳は「見て、これがコップでこれがコップの絵だよ」と教えられなくても、そのことがわかる。人間の脳にはもともと抽象を理解する能力が備わっているのです。私は、物理的な意味でも抽象的な意味でも、インスタレーションを時間や空間の中にあるものとしてとらえています。インスタレーションは、ある場所、ある時に物理的に実在します。見る人がどれだけの時間を掛けて観るのか、スクリーンの前を横切るのか、ぐるっと廻るのか、じっくり座るのか、どのように作品を体験しようとするかを考えます。また作品の内容に迫るといふ行為自体も、同じよう

に時間・空間と結びつけて語ることができます。作品を作るときと同様に、展示会の構成を考える時も私はなるべく多くのアイディアを出し、想像を巡らせます。だから見る方は自由に過ごしていただければよいのです。

岡村)日本との関わり、その魅力についてお聞かせください。フィオナ)日本で最初に作品を発表してから15年程経ちます。私は自分がどこで撮影するか、ということに対してあまり意識的ではありませんが、日本は、私にとってまだまだ魅力的な場所です。インドネシアに生まれ、中国人の血を一部引いている身としては、東南アジアには共通する価値観がありどこへ行っても居心地がいい。一方で、日本



左)《プロヴィナンス》デジタル・インスタレーション 2008年/右)《プロヴィナンス》2008年より、展示風景 Photo: Per Kristiansen



《リフト》シルクスクリーン 2000年 東京都写真美術館蔵 ※表紙は部分

は自分にとって異質で新鮮な魅力があります。日本は私にとって知っているようで、知らない場所、比較的近いようで遠くないような存在でもあります。物事がよく見えるという意味で、距離があることは良いことです。私がここで仕事をする上で、その距離が気に入っています。日本人のものの見方、そして人生への姿勢や哲学はとても興味深く思えます。それは西洋の文化を豊かにしてくれるものでもあると思います。

【2013年、金沢・大阪で行ったインタビューをもとに構成】

#### — インタビューを終えて

言葉をていねいに選び、自ら編集するように話すフィオナの印象には、物静かで柔軟でいながら芯がぶれない凛としたところがあります。美術における映像作品の地位を高く押し上げた功労者の一人ともいえるフィオナは、作品制作や展示に対しても、良く見て良く考えて、さまざまな要素をていねいに積み上げていきます。わかりやすさや奇抜さではなく、フィオナが世界に向けたまなざしの「美しさ」を体感してください。

(東京都写真美術館学芸員 岡村恵子)

#### 本展は2階展示室 / 1階ホールの2会場で開催します

	【2階展示室】 映像作品、写真作品、インスタレーションを展示
	【1階ホール】 ドキュメンタリー2作品を上映 (着席、先着190名)
上映作品の紹介は <a href="#">本誌13ページへ</a>	
図版上)「興味深い時代を生きますように」1997年、60分 図版下)「影の王国」2000年、50分 上映時間および詳細はホームページにてご確認ください。	

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

2F 1F	2階展示室 Exhibition Gallery 1階ホール 1F Hall
	7月19日(土) → 9月23日(火)祝 毎週木・金は21:00まで開館(詳細は裏表紙へ)

## フィオナ・タン まなざしの詩学 Fiona Tan Terminology

- 一般 900(720)円  学生 800(640)円
- 中高生・65歳以上 700(560)円

2階展示室 / 1階ホールの2会場をご鑑賞いただけます。

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 朝日新聞社 □後援:オランダ王国大使館 □協賛:株式会社資生堂 / 東京都写真美術館支援会員

フィオナ・タンは、しばしば古い記録フィルムや写真を素材とし、ときにドキュメンタリーとフィクションとの間を往還しながら、集団や個人における文化的差異がいかに記録され、また人々の記憶に留められてきたかを繊細に問いつける作品で、国際的な評価を得てきました。静止写真、フィルム、ビデオ、デジタルビデオといった異なるメディアを用いながら、常にその作品に通底しているのは、見るもの・見られるものが交錯する視線のポリティクス(政治性)や、表象することの不可能性を前にしたもどかしさ、そして、その不可能性を引き受けつつ、それでも映像だからこそ伝え得ることへの希求です。1998年に初めて作品が日本で展示されてから15年余り、フィオナ・タンの作品は、国内でも折々に発表され、また日本に由来する作品も多数手掛けています。その細部にまで行き届いた美意識は、高い支持を得てきました。本展では、大きな注目を集めた2009年ヴェネチア・ビエンナーレオランダ館出品作や、その後の作家の新たな展開を含めた新旧の代表作を通じて、写真と映像の本質に迫る問いを詩的かつ批評的に投げかけるフィオナ・タンの世界をご紹介します。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~ ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント  
「フィオナ・タン アーティスト・トーク」7月20日(日) 14:00-15:30  
□聞き手:岡村恵子(担当学芸員/東京都写真美術館)  
□会場:1階ホール □定員:190名  
※展覧会チケットの半券(当日有効)をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。  
※当日10時より1階受付で整理券を配布します。番号順入場 自由席

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

5月13日(四)→7月13日(日)

## 佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはいない

Sato Tokihiro: Presence or Absence

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □助成:芸術文化振興基金 □協賛:株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/エプソン販売株式会社/株式会社安井建築設計事務所/ライオン株式会社/清水建設株式会社/大日本印刷株式会社/損保ジャパン・日本興亜損保/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 □協力:株式会社カシマ/有限会社ワーカーズ



光・時間・空間・身体といったキーワードをテーマとして、写真装置による制作を続けている佐藤時啓は、光が小さな穴を通じて像を結ぶという基本的な原理への興味や驚きを出発点に、ピンホール・カメラやカメラ・オブスクラ、長時間露光を用いた制作を展開しています。代表作のひとつである<光一呼吸>シリーズでは、森や海、都市など、カメラの前に広がる風景の中を佐藤自身が、発光するペンライトや太陽光を反射させた鏡を持って歩き回り、その移動の軌跡をフィルムに定着させていきます。結果として捉えられた光のイメージは現実世界では不可視のものであり、写真ゆえに見ることを可能にするという事実を明らかにします。また、建築物

やバスなどの乗り物をカメラ装置として改造し、そこにうつし出された変化するイメージを街の人々と共に体験するパフォーマンスも手がけるほか、ユニークな構造を持たせたピンホール・カメラも自ら制作しています。本展では、佐藤のさまざまな試みによってもたらされたプリント作品を中心に展示。<光一呼吸>シリーズや移動式カメラ・オブスクラによる最新作、当館の新規収蔵作品も加えた99点で、今もなお発展し続ける作家の表現のフィロソフィを紹介します。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3全曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

シリーズ<光一呼吸>より《#347 Hattachi》1998年 東京都写真美術館蔵

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

5月13日(四)→7月13日(日)

## 平成26年度東京都写真美術館コレクション展

# スピリチュアル・ワールド

Collection Exhibition 2014: The Spiritual World

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:東京都 東京都写真美術館 □協賛:凸版印刷株式会社

日本では古来、森羅万象に「八百万の神(やおよろずのかみ)」が宿るとする信仰をもち、目に見えないものや日常を超えたものの存在を感じとる感性、神仏を畏れ敬う意識、生きている者と死者の関わり合いを大切にする死生観とともに人々は生きてきました。近代化の過程で失われていった非合理的なものの中には、日常生活や現代社会の価値観にはない未来への手がかりが隠されているのかもしれませんが。精神性(スピリチュアリティ)の領域へ。不可視のもの、超越的なものにもむかって、感性のチャンネルを開いていくこと。「スピリチュアル・ワールド」には人を浄化し、活性化する力が秘められているはずです。本展は30,000点を超える当館の豊富なコレクションのなかからセレクトした写真作品と映像作品・資料によって、日本の宗教文化や民間信仰と視覚表現の接点をさぐるとともに、スピリチュアルな世界観を背景に独自のヴィジョンを追求してきた写真家/美術家たちの作品表現を紹介します。(会期展示替えあり 前期:6月8日まで、後期:6月10日-7月13日)

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4全曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。



藤原新也「全東洋写真・インド」より 1979年 発色現像方式印刷  
図版はすべて東京都写真美術館蔵



高木庭次郎「白糸からの富士山」1910年代 幻燈写真、ゼラチン乾板に手彩色



内藤正敏「婆バクハツ」より「お籠りする老婆 青森県・高山稲荷」  
1970年 ゼラチン・シルバー・プリント

生きること  
死ぬこと  
のすべて

all about life and death  
Photographs by AKIHIKO OKAMURA

岡村昭彦の写真

3階展示室

2014年7月19日(土) - 9月23日(火・祝)

毎週木・金は21:00まで開館(詳細は裏表紙へ)

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

一般 600(480)円 / 学生 500(400)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催: 東京都 東京都写真美術館 □助成: 公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 □協賛: 凸版印刷株式会社 □協力: 岡村昭彦の会



岡村昭彦(1929-85)は、1964年6月12日号の『ライフ』に9ページにわたり掲載されたベトナム戦争の写真によってフォトジャーナリストとして国際的にデビューを果たし、「キャバを継ぐ男」として一躍注目されました。65年には、フィン・タン・ファット南ベトナム解放民族戦線副議長(当時)との会見取材に成功しますが、そのために南ベトナム政府から5年間の入国禁止処分を受けてしまいます。ベトナムから切り離された岡村は、ドミニカ、ハワイ、タヒチなどを取材し、68年に家族とともにアイルランドに移り住みます。北アイルランド紛争を取材するためだけではなく、ベトナム戦争を核時代の実験戦争としたアイリッシュのJ.F.ケネディ大統領のルーツを追ってのことでした。そこを拠点に69年、日本人ジャーナリストとして最初にピアプラ戦争を取材します。また入国禁止処分が解けた71年には、徹底した取材制限が行われた南ベトナム政府軍によるラオス侵攻作戦の失敗の実態の取材に成功します。晩年はバイオエシックス(生命倫理)という言葉掲げてホスピスの問題に取り組みました。

岡村昭彦の軌跡は、われわれはどんな時代を生きているのかを鋭く問いかけます。それは「世界史」の中を日本人はいかに生きてゆくべきかを示しているといつてよいでしょう。本展では、残された原板に遡って調査研究された成果をもとに、未発表の写真を中心に新たにプリントを作り展示構成します。そこにはこれまで言われてきた「フォトジャーナリスト」という言葉ではくくることができない、岡村昭彦の思想と感情の軌跡が掘り起こされ、人間がカメラのレンズを通して、世界をどのように認識したかがあざやかに浮かび上がってくるでしょう。



- 1) 全日空羽田沖墜落事故は、乗組員搭乗者133名が全員死亡する大惨事だった。犠牲者の遺体を取容するための棺桶が山積みになっている。東京、1966年2月。
- 2) ヘルメットに花を飾っておどける南ベトナム政府軍兵士。南ベトナム、1964年頃。
- 3) 大干ばつによりエチオピアは飢饉にみまわれていた。救援物資を積んだローリー、1974年。
- 4) 牛市の風景。アイルランド共和国、1970年頃
- 5) 公民権運動や宗教対立をめぐってデモや衝突が繰り返される北アイルランドでは、1969年から治安維持のためイギリス軍が投入された。ベルファストか。北アイルランド、1970年頃。

関連イベント

「シンポジウム」9月6日(土) 18:00-20:00

- モデレーター: 生井英考(立教大学教授)
- パネリスト: 百々新(写真家)、小林美香(東京国立近代美術館客員研究員) 戸田昌子(武蔵野美術大学非常勤講師)

□会場: 1階ホール □定員: 190名

※展示会チケットの半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。※当日10時より1階受付で整理券を配布します。番号順入場 自由席

メディア取材者ための展示解説 7月19日(土) 16:00-16:45

担当学芸員がメディア取材者のために展示解説を行います。一般の方もご参加いただけますが、展示室内の撮影はできません。あらかじめご了承ください。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~

※本展示会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

# 世界報道写真展

おなじ時代、おなじ空の下に

地下1階展示室

2014年6月7日(土) - 8月3日(日)

7月17日より毎週木・金は21:00まで開館(詳細は裏表紙へ)



ジブチで夜の海岸に立ち、携帯電話を掲げて隣国ソマリアからの安価な電波をとらえようとするアフリカ出身の出稼ぎ労働者たち。こうして外国に住む親類との連絡をかりうじて維持している。ソマリア、エチオピア、エリトリアなどから、よりよい生活を求めてヨーロッパや中東へ渡ろうとする出稼ぎ労働者たちにとって、ジブチは共通の中継地点となる。

**世界報道写真大賞** ジョン・スタンマイヤー(米国、VIIからナショナルジオグラフィック誌) 2013年2月26日、ジブチ市、ジブチ

オランダで毎年開かれる「世界報道写真コンテスト」。世界各地の10万点近い応募作品の中から選ばれた大賞など、入賞作品を紹介する「世界報道写真展2014」を開催いたします。アフリカの出稼ぎ労働者たちが、微弱な電波を頼りに携帯電話で外国の家族と連絡を取ろうとする姿。台風30号の生存者たちが祈りの行進をするフィリピン。インドの先天性色素欠乏症の少年たち。人間に最も近い動物と言われるボノボの写真など、同じ時代、同じ空の下で起きていることを伝える作品はどれも、私たちが目にすることの少ない驚くようなドラマを写しています。

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

一般 800(640)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:世界報道写真財団/朝日新聞社 □共催:東京都写真美術館 □後援:オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会 □協賛:キャンノンマーケティングジャパン株式会社



コンゴ民主共和国のココロポリ・ボノボ保護地区の近くに生息する野生のボノボ集団の中で、とくに好奇心の強い5歳のボノボ。人間にもっとも近い動物であるにもかかわらず、コンゴ盆地周辺部に暮らす野生のボノボの生態についてはほとんど知られていない。生態系の縮小と野生動物の肉の取引のために生存が脅かされている。

**自然の部 組写真3位** クリスチャン・ツィーグラー(ドイツ、ナショナルジオグラフィック誌向け) 2011年1月25日、コンゴ



ネルソン・マンデラ元大統領の遺体を納めた棺が、プレトリアの政府庁舎ユニオンビルで公開安置された。最終日となった3日目に訪れたが、公開が終了したと知らされ、がっかりする女性。

**観察肖像の部 単写真1位** マーカス・シュライバー(ドイツ、AP通信) 2013年12月13日、プレトリア、南アフリカ



ロサンゼルスグリフィス公園内を歩くクーガーの姿を、仕掛けカメラがとらえた。ワイオミング州のテトン国立森林保護区の科学者たちは、首につけたGPSと仕掛けカメラによって、クーガーの基本的な行動をもっとよく知り、秘密のベールを暴こうとしている。

**自然の部 組写真1位** スティーブ・ウィンター(米国、ナショナルジオグラフィック誌向け) 2013年3月2日、ロサンゼルス、米国



台風30号「ハイエン」に襲われたレイテ島東部のトロサで、宗教行事の行進に参加する生存者たち。観測史上最大級のサイクロンとなったハイエンは、フィリピン中央部を中心に8,000人の死者と行方不明者を出し、400万人以上が家を失った。

**スポットニュースの部 単写真1位** フィリップ・ロベス(フランス、AFP通信) 2013年11月18日、トロサ、フィリピン



西ベンガル州にある視覚障害者のためのヴィヴェカナンダ・ミッションスクールの寄宿舎で、写真撮影に応じるアルビノ(先天性色素欠乏症)の少年たちのグループ。ここはインドでは数少ない盲学校のひとつだ。

**演出肖像の部 単写真1位** プレント・スタートン(南アフリカ、Getty Imagesによるルポルタージュ) 2013年9月25日、西ベンガル州、インド



地方の村メルケンブレヒツに住む姉妹、ハンナとアレナ。

**観察肖像の部 組写真1位** カルラ・コヘルマン(オランダ) 2012年7月19日、メルケンブレヒツ、オーストリア

## EVENT 関連イベント

### 「第7回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ」

フォトジャーナリズム、フォトドキュメンタリーの現場を学べるプログラム。プロのフォトジャーナリストとして世界的な活躍を目指している方、ぜひご参加ください。7月19日(土)~21日(月・祝)の3日間で行う集中セミナーです。

講師:Q.サカマキ(写真家、WPP07受賞者、NY在住)、外山俊樹(「アエラ」フォトディレクター)

- 2014年7月19日(土) 10:00~ □2014年7月20日(日) 10:00~
- 2014年7月21日(月・祝) 10:00~
- 会場:東京都写真美術館 1階アトリエ(創作室)ほか
- 定員:20名 ※お申込み多数の場合は応募動機にて選考。
- 参加費:20,000円 □締切:6月20日(金) 必着
- 申込時に応募動機(400字以内)が必要です。※詳細はホームページをご覧ください。

### 「写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ 公開レビュー」

「第7回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ」の講師Q.サカマキ氏の作品とワークショップ参加者の成果物の公開レビューをおこないます。

- 7月21日(月・祝) 15:00-18:00 □会場:東京都写真美術館 1階アトリエ(創作室)
- 開場:14:30~ □定員:約50名(当日先着順・自由席)
- 対象:世界報道写真展2014のチケットをお持ちの方

**B1F**

地下1階展示室 Exhibition Gallery

8月9日(土)→8月24日(日)  
毎週木・金は21:00まで開館(詳細は裏表紙へ)

清里フォトアートミュージアム(K\*MoPA) 開館20周年記念

**「原点を、永遠に。」**

世界の若い写真家の情熱を未来に伝える“ヤング・ポートフォリオ”20年の軌跡

 入場無料  主催:清里フォトアートミュージアム  共催:東京都写真美術館ハンネ・ファン・デル・ワウデ (オランダ, 1982) Hanne VAN DER WOUDE  
《MC1R (自然な赤毛) - モニカ》2007 MC1R (Natural red hair) - Monica  
©Hanne van der Woude**関連トーク・イベント**

8/9(土)、10(日)、22(金)、23(土)、24(日)午後より、さまざまな写真家をゲストに迎えたトークイベントを開催します(要整理券)。詳細はホームページをご確認ください。

◎お問い合わせ 》 清里フォトアートミュージアム 0551-48-5599  
◎ホームページ: <http://www.kmopa.com/>**B1F**

地下1階展示室 Exhibition Gallery

8月30日(土)→9月21日(日)  
毎週木・金は21:00まで開館(詳細は裏表紙へ)**写真新世紀 東京展 2014** NEW COSMOS OF PHOTOGRAPHY TOKYO EXHIBITION 2014 入場無料  主催:キャノン株式会社  共催:東京都写真美術館

キャノンが文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、1991年にスタートした公募コンテストです。これまでに国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出し、新人写真家登竜門として広く知られています。今年は第37回目の公募を実施。毎回千人を超える応募が寄せられ、厳正な審査を行い優秀賞5名と佳作20名を選出します。「写真新世紀 東京展 2014」ではそれら受賞作品を展示する他、昨年度のグランプリ受賞者である鈴木育郎氏の新作個展もご紹介します。また会期中にはグランプリ選出公開審査会を行い、本年度のグランプリが決定する予定です。フレッシュで力強い写真家の卵たちによる受賞作品の数々をどうぞお楽しみください。



「写真新世紀 東京展 2013」 展覧会風景

◎お問い合わせ 》 キャノン(株)写真新世紀事務局 03-5482-3904 ◎ホームページ: [canon.jp/scsa/](http://canon.jp/scsa/)**改修工事にもなう休館について**

平素より当館の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。東京都写真美術館(館長:福原義春)は、2014年9月24日(水)より、館の大規模改修工事に伴い下記のとおり休館いたします。当館は1995年1月の総合開館以来、約20年間にわたり写真と映像専門の総合美術館として日本におけるセンターの役割を担ってまいりました。この度の改修工事で、経年劣化に伴う設備機器の更新等を行い、公共施設としてお客様により安心して快適な美術館へと生まれ変わります。長期にわたる休館となりますが、皆様の格別のご理解とご高配のほどお願い申し上げます。

休館期間	2014年9月24日(水) - 2016年8月末(予定)
恵比寿映像祭の開催について	休館期間中も開催予定です。「第7回恵比寿映像祭」(2015年2月)の会場・内容等の詳細につきましては、2014年10月頃にご案内いたします。

**休館FAQ**  
よくある質問

ワークショップはありますか?

一部開催を予定しています。最新情報は決定次第、随時ホームページで発表します。

友の会は募集しますか?

現友の会は休館を持って解散とし、リニューアルオープン時に新友の会の募集を始めます。現会員の有効期限は2014(平成26)年9月23日です。新会員の募集については、2016(平成28)年に詳細が決まり次第ホームページで発表します。

休館のあいだ、学芸員は何をしているのですか?

2016年9月以降に開催する展覧会の調査・交渉・準備、作品管理、収蔵作品データベースの更新作業、「恵比寿映像祭」の準備・開催、教育普及活動(スクールプログラム、ワークショップなど)、出版書籍の調査・執筆、専門分野の研究・調査、各種委員会の開催、広報活動など、通常の美術館業務とリニューアルオープンに向けた準備を行っています。

ボランティアは募集しますか?

2014(平成26)年度、2015(平成27)年度の新規募集はありません。2016(平成28)年度については、詳細が決まり次第ホームページで発表します。

図書室の蔵書は閲覧できますか?

閲覧できません。大変申し訳ございません。

スクールプログラム(学校向け教育プログラム)はありますか?

休館中に対応できるプログラムを用意しております。詳細はスクールプログラム担当までお問い合わせください。

その他の最新FAQはホームページをごらんください。 <http://www.syabi.com/>**東京都写真美術館** 《お問い合わせ》 東京都写真美術館 TEL. (03) 3280-0099 (代表)

Film 『華いのち 中川幸夫』

これが“いけばな”なのか?!

流派を否定し、脊椎カリエスと闘いながら、極貧の中で花の生き死にと向かい合う孤高のいけばな作家、中川幸夫。花そのものの生命力を鮮やかに浮かび上がらせて提示する衝撃的な作品の数々。長年にわたって書き綴られた膨大な創作ノートと、みづからの言葉を通じて、様々な創作誕生の秘密を明かす。

◎「想像を超える創造に挑み続けた男(「聖なる山」の制作)」



イメージ・テン 03-3553-1040
◎上映スケジュール: 6月7日(土)~ 7月18日(金)
◎休映日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)
◎上映時間: 10:30(土のみ)/13:00/16:00/18:00
◎料金: [前売券]1,300円 [当日券]一般1,800円/学生1,500円/シニア・障がい者手帳をお持ちの方1,000円
※その他、当日券の割引もございます。詳細はホームページにてご確認ください。【公式ホームページ】http://hanainochi.com/

Film 『クラシック音楽映画名作選』

偉大な音楽家たちが身近に感じられる音楽映画の名作を特集!

戦前の伝説的な名作から、ハリウッドの大スターが出演した作品、知られざる佳作、オーケストラ物の基本形となった大ヒット作まで、伝記映画を中心にクラシック音楽映画の珠玉の名作を特集上映。



◎「愛の調べ」提供:T&Kテレフィルム

楽学会 03-3498-2508
◎上映スケジュール: 6月28日(土)~ 7月18日(金)
◎休映日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)
◎上映時間: ホームページにてご確認ください。
◎料金: [当日券]一般1,500円 シニア・学生・障がい者手帳をお持ちの方1,300円 小中高生500円 【前売券】(1回券)1,300円 (9枚綴り前売券)9,000円 ※日時指定ではありません。【公式ホームページ】http://www.gakugakai.com/

Film 『フィオナ・タン ドキュメンタリー作品上映』

本誌01~04ページで紹介した「フィオナ・タン まなざしの詩学」展のチケット(当日有効)の提示により、フィオナ・タンによるドキュメンタリー2作品をご鑑賞いただけます。※各回先着順・定員190名

『興味深い時代を生きますように』

(1997年、60分) ※写真上
フィオナ・タン自身の血縁者をオーストラリア、香港、インドネシア、中国、ドイツ、オランダに取材した、異国の地に生きる華人の文化的なアイデンティティについて考察した私的なドキュメンタリー。

『影の王国』

(2000年、50分 東京都写真美術館蔵) ※写真下
「世界がアーカイヴなら、自分は何のイメージを選ぶだろう?」写真の収集家やアーキヴィスト、また同じくアーティストのアルフレッド・ジャラーを訪ね、フィオナ・タンは問いを重ねていく。

◎上映スケジュール: 7月19日(土)~9月23日(火・祝)
◎休映日: 9月12日(金)および毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)
◎上映時間および詳細はホームページにてご確認ください。
※混雑時には入場を制限する可能性があります。あらかじめご了承ください。

図版はすべてCourtesy of the artist and Frith Street Gallery, London; Wako Works of Art, Tokyo



友の会 Support

館の大規模改修事に伴う長期休館のため、2014年9月24日より友の会は解散いたします。

これまで友の会の活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました。リニューアル開館時には、改めて友の会会員の新規募集を行う予定です。詳細につきましては「友の会カウンター」までお問い合わせください。

会費

個人会員 1,000円 家族会員(同伴者1名まで) 1,500円 シルバー会員(65歳以上の方) 500円

友の会特典

Table with 2 columns: 友の会特典 and 特典内容. Includes details about exhibitions, discounts, and membership benefits.

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including KADOKAWA, 青春出版社, 徳間書店, etc., organized in columns.

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社 (一社)=一般社団法人

(平成26年5月現在・五十音順)